

KanjiKreativ 解説

ドイツ生まれの「漢字記憶術」

Dr. Yoriko Yamada-Bochynek
 Dr. HIRAOKA Norito
 HIRAOKA Yorika

1. 基本構想

一般的な L2 学習者の苦悩・・・漢字をいくら学んでも、次から次へ新しい形が現れ、いつまでたっても達成感も終わった感も得られない。もう無理だ、やめよう、あきらめよう・・・。
 (克服不能感 漢字の川に溺れ死ぬ) ※L2 学習者=第二言語/外国語としての日本語学習者

KanjiKreativ 学習者の喜び・・・なんか複雑に見える漢字だけど、これを覚えときゃ、その組み合わせだけで大体意味がわかるようになるんでしょ。表意文字の奥義をマスターしちゃったよ！（わかる・データ管理可能感！ 漢字の魅力体得！）

KanjiKreativ (漢字クレアティブ。以下、KK) は、誰もが漢字を記憶できる独自の的方法論を打ち立てた。

1. 1 意味の体系をもった 281 原子を形態的に体系立てて学ぶ

補記： Heisig-MethodとKKとの相似(視覚連想)と相違...

一つづつ、1945 に至るまで

12課「世界把握文字化」としての意味体系性

42課 形態の体系性

「従来の漢字学習法と KK の漢字学習法の発想は全く異なっている。

例えば、外国人向けのHeisig法にせよ、日本人向けの『学習配当表』にせよ、漢字一つ一つ習っていき、いつか(何年か先に?) 常用漢字全部という到達点に達するという方針では同じである。

一方、KKでは、常用漢字全2136字から筆者が抽出した『最小構成要素=原子』を先ず習う。その上で、この原子の組み合わせで漢字を学ぶ。

体系性その2： 1945/2136 常用漢字: 形態の体系性

新たな字を学ぶとは、従来の漢字学習法では新たな字形を学ぶことである。一方KKでは、新たな「組み合わせ」を学ぶことに、変わる。

原子は漢字の部品であり、意味をもった最小構成要素である。合計281ある。事実上すべての漢字は、この原子の組み合わせだけでできている。だから原子さえ学べば、漢字の世界を泳いでいける。原子は漢字世界を解くカギなのである。KKでは、漢字の世界の『始めと終わり』を把握できる体系的な記号処理能力が獲得できるわけである。

このKKから『漢字教育のパラダイム・チェンジ』が始まるかもしれない。」

(山田ボヒネック 2017:7(印刷中) JaH (ドイツ大学日本語教育研究会) : 紀要第5号 「『グローバル化時代:” KanjiKreativ” 採択-文化記号学的漢字教育』のすすめ Die Generation der Globalisierung:Anstoß zur “Anwendung des ‘KanjiKreativ-E- Learningsprogramms für die kulturesemiotische Didaktik für die japanischen Orthographie “

1. 2 学習者の母語で漢字の形と意味を覚える

⇒ 「識字力」(字形と意味)を養成する

〈原子の学習〉



漢字の部品「原子」は、学習者の母語で学ぶ。(日本語は使わない。)原子の1つである「貝」を例に上げると:

「貝」 → 「Muschel」(購買手段)
(shell)

漢字は表意文字なので、文字の意味は言語によらず普遍的である。だから

「漢字の形・意味を 母語で覚える」

ことができる。それも視覚だけで覚えることができる。覚える際には、漢字の字形の

元になったイメージと共に覚える。この例では貝がらの絵である。

貝がらの絵 <=> 「貝」 <=> 「Muschel」(購買手段)
(shell)

つまり、

「この絵が、この字になった。意味はこれだ。」

ということ、右脳と左能を同時に使って母語で覚える。eLearning では3秒程度のアニメーションを使っている。ただの暗記ではないので、簡単だし、忘れにくい。

〈漢字の学習〉



漢字の形と意味も母語で覚える。日本語は使う必要がない。

すでに原子を覚えているので、原子の組み合わせで漢字の形を覚える。

「言」＋「丶」＋「水」＝「詠」
 「say」＋「droplet point」＋「water」と足し算で覚えてゆく。

但し、281の原子をランダムに組み合わせることはしない。最も利用頻度の多い「口」原子から順番に、「増分法（後述）」で漢字を覚えてゆく。原子の使い方に慣れながら段階的に漢字の形を覚えるので、無

理なく、漢字の形を覚えられる。

なお、この「詠」の字では、旁に「永」という形が出て来る。上の図でも「永、泳、詠」と3つあることがわかる。「エイ」という形声記号になっている。言い方を換えれば、「永」という部品は漢字を造字する力があるということである。

このような「原子の組み合わせでできた造字能力をもった部品」のことを「分子」と呼んでいる。分子にも意味があるので、形と意味を覚えられるようにしている。

「丶」＋「水」＝「永」（eternal）

分子は登場するたびに参考として呈示する。アニメーションは使わない。

漢字の意味についても、原子（または分子）の組み合わせで覚える。

「言」×「丶」×「水」 または 「言」×「永」

但し、意味については、掛け算的なふくらみがある。

「say」×「droplet point」×「water」 → 「Poem; Write a poem」

「say」×「eternal」 → 「Poem; Write a poem」

KKでは原子または分子の意味から漢字の意味が推測しやすくなるように暗記文を呈示している。

この「詠」の場合、

「Through poetry words can exist eternally。」（下線部が形に対応）

この暗記文は学習者によって好みがあるので、eLearning教材では、学習者が自由に編集・記録できるようにしている。

原子や分子の意味から漢字の意味を推測する方法は、慣れるしかない。しかし、「漢字まるごとの形から意味を丸暗記」する通常の方法に比べれば、「原子や分子の意味から漢字の意味を推測」するのははるかに頭にやさしく簡単である。

形は足し算でも、意味は掛け算的にふくらんでしまうのは、おそらく造語の本質に関わることである。新たな意味をもった何かに名付ける際に、知った言葉（文字）を組み合わせで足し算以上の意味を与えたのが新しい言葉（文字）なのであろう。（仏言語学者 André Martinet [1949] のいう二重階層性「Double Articulation 二重表徴性」によれば、音声言語の構造は、意味をもたない第一表徴レベル [言語音>音素] と、意味をもつ第二表徴レベル [語彙>文>テキスト] からなる。KKでは、「原子」が第一表徴レベルにあたり、「分子・漢字」が第二表徴レベルにあたる。）

漢字学習編の第1課・第2課では暗記文を呈示するが、それ以降は自分で暗記文を自由に考えることとし、暗記文は呈示していない。この暗記文を作れるようになることは、漢字を生み出す方法（「漢字の造字法」）が身につくことで、造字法そのものを学習させたいからである。

〈3段階の学習： 知る → 復習 → テスト〉



eLearning 教材では、原子・漢字をそれぞれ3段階で学習する。

まずその課の原子や漢字の形と意味を知る。次に、形をみたら意味が思い出せるか意味をふせて形を呈示して復習する。最後に、形と意味をつなぐことができるかテストする。

テストで正答率80%以上で次の課に進む。

1. 3 KK が取り扱う「文字の意味」について

KK では、漢字の部品の意味について、字源的な正確さを追求していない。すでに白川静が明らかにしたように、3000年の歴史をもつ漢字にはそれぞれ原初的なイメージがある。しかしながら、我々日本人は、古代シナ人が漢字に託した原初的なイメージをそのまま使って来たわけではない。むしろ、原初的なイメージを捨て、日本人から見て適切な意味の集合体を託すものとして漢字の形を利用してきた。

KK では、日本人は長い歴史を通じ日本人なりに漢字を再解釈し、日本人に都合の良いように主体的に活用してきたと考えている。言い換えれば、「実際の漢字の使われ方から見て、この形に託されている意味はこれだ」と解釈可能だと考えている。KK では、この「漢字の使われ方から見た形の意味」をイメージと言葉（母語での表現）にしている。

とりわけ漢字の部品である「原子」の意味については、様々な意見がありうると理解している。しかし、漢字の意味を日本人が主体的に再解釈したものである、あるいは、漢字を覚えるという実用性を重視した結果である、と肯定的に受け取っていただきたい。

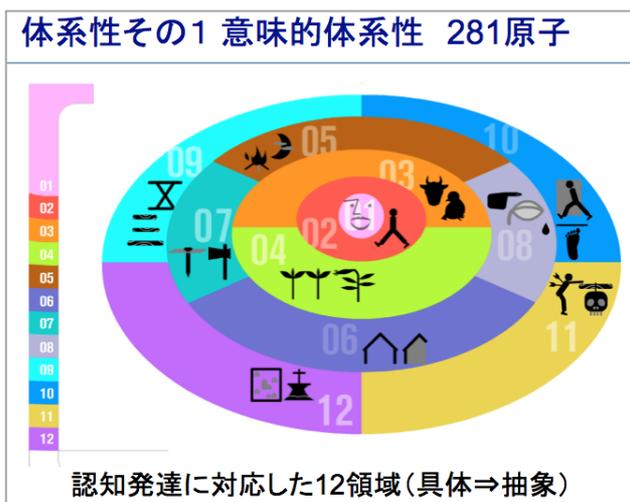
KK は「漢字記憶術」なのであって、漢字の字源を示すものではない。

なお、現代の漢字学の権威者である笹原宏之は「「字源」論はあくまでも後世代の民間語源説的「説明」である」と『漢字の歴史』[2014: 49 ちくまプリマー新書 219]で述べている。また、白川静も「六書に関して付言すると、個々の時の太古の時代の字源については、後人の考証推測した解釈による説にとどまるものが多いのです」と述べている。

2. 体系性

KKでは原子や漢字の形と意味を体系的に覚えてゆく。どのような体系になっているか簡単に説明する。

2. 1 原子学習の体系性：意味的体系性（上掲箇所）



第1課では、ヒトが誕生した後、最初に目で認識する最も具体的なもの「顔（かお）」に対応した6原子「口 > 目 > 自(鼻) > 頁(面) > 耳 > 而(あごひげ)」を扱う。それから徐々に抽象度が増し、最終的に12課で、ヒトの認知発達で言えば12歳ぐらいの抽象度に至り終わる。

原子はヒトの認知発達を参考に12グループに分けてあり、ある程度意味の近い原子をまとめて覚えられるようにしてある。

「2課:ヒト・身体 > 3課:動物 > 4課:植物 > 5課:自然・風景 > 6課:家・建物 > 7課:道具 > 8課:記号群(3500年の文字獲得に

より得られた高度な記号化能力) > 9課:言語・数字・方角 > 10課:行為・動作 > 11課:感情・知覚 > 12課:公私の区別・社会・道徳」。

この図は、12グループの原子群を図示したものである。数字はグループ番号=レッスン番号である。中心に「顔」グループがあり、内側から外側に向けて抽象度が高いグループがあることを示している。

より適切なグループ化が可能かもしれないが、現時点ではこのグループ分けがよりましな分け方であるとして採用している。

2. 2 漢字学習の体系性：形態的体系性（上掲書：17-18）



図 14 □増分式形態的出現順に習う

漢字学習の配列は「増分式」（新要素が一つずつ追加されていく形式）である。原子は漢字の中で利用される頻度の高いものから順番に呈示してゆく。その際、その原子を含む漢字を呈示するが、先行する原子との組み合わせでできている漢字を優先的に呈示する。

原子「口」は、原子であると同時に常用漢字である。281 原子のうち、全漢字への出現頻度「212回」と最多回数の原子である。

そこで、最高の漢字造字力をもった原子として先ず第一番目に「口₁」を提示する。この原子

子が組み合わされて出来る漢字は「品₂」。原子「口」だけが関与している漢字はこれですべて。

よって、増分式に次の原子を呈示する。2番目の造字力をもった原子「日₃」である。「日」の組み合わせの漢字は「晶₄」、そして、それ以前の「口」と組み合わせた「唱₅」であり、これで該当原子・漢字はすべて。以下、同様に原子をひとつずつ増やしてゆく。



ちなみに、増分式で次の原子は「木₆」で、ここに「木₆、林₇、森₈、東₉、東₁₀、棟₁₁」を呈示する。これらは、該当原子及び先行原子との組み合わせでできている漢字であり、これですべて。同様に「一₁₂」、「本₁₃」が来て、次に「人₁₄」が来ると「人₁₄~占₁₉」と漢字が現れてくる。

第1課は、漢字学習の形態的体系性を明快に表わしている。

3. 各種「索引」 (リスト表)

KKには以下の索引群が付属している。

3.1 原子

①原子：意味の提出順

(第1課「顔」 第2課「身体」…)

口	大
目	夫
自	小
頁	手
耳	寸
而	又
人	厶
欠	力

儿	色
足	母
辛	子
人	孝
士	心
也	血
女	亦
身	口

②原子：漢字の提出順

口	、
日	言
木	十
一	土
人	五
二	手
儿	又
水	寸

月	禾
田	ム
心	宀
垂	豕
ノ	冫
糸	ハ
ヒ	フ
ヒ	門

③母語の意味のアルファベット順

(例では独語)

Abend	夕	Bett	牀
Achsel	亦	Bewegung	マ
acht	八	biegen	曲
alt	古	Blitz	電
[Altar]; zeigen	示	Blut	血
anders	勿	Bogen	弓
anhalten	止	Bohne	豆
aufreißen	业	Boot	舟
Auge	目	brodeln	弗
Ausbuchtung	凸	Brunnen	井
ausüben; aufgrund	為	Büchse	缶
auswingen	斗	Busch	ホ
Axt	斤	Dachs	豕
Backenbart	而	Deckel	一
Bambus	竹	Dekoration	多
Baum	木	der Leiter	司
beenden	了	doppelbeinig	兼
Bein; Fuß	足	Doppelfunktion	兼
benutzen	用	drei	三
Berg	山	dreißig	卅
Berggipfel	丰	dunkelrot	朱
besondere Fähigkeit	甫	Duo	二
Betrieb	呂	durchdringende Stimme	于

3.2 分子：漢字の提出順

品	品	品
林	林	林
東	東	東
東	東	東
本	本	本
旦	旦	旦
占	占	占
元	元	元

右	必	必
友	君	君
支	圣	圣
付	系	系
寺	苗	苗
果	若	若
里	比	比
有	化	化

3.3 漢字

①原子の意味の提出順、②原子の意味のグループ順、③分子の提出順、④母語の意味のアルファベット順

①原子の意味グループ順

口 口古兄右台加句召号吐合同向
如吉各回舌名吸叫束克君吟含
吹呈局乱告否況若和治舍始治
店拘沼招拐事尚知命呼周味品
保胎怠拾洞点架勅客昭祝括活
咲悟俚胴倍員劊割格唆速倉悦
害哲唐高党郡匿造唇唱捨培域
唯略喝紹險陪脫商粘問堂常啓
部週彫船給塔塔檢賀結惑減絡
落創敬詔稅程超疎割喫勤答筒
尋善善渦過掌極喚喪絹損詰感
遠照鉛園路群猿隔聖酪禍塩話
辞痴漢嘆嗣語說銅開銘鳴酷諾
賠噴器褒銳閱稿囑賞舖調操橋
憾整興還諮壇頼猷糖融憩燥環
轄謹償矯嚇額繕臨難驗繰藻韻
瀨競露驚

目 目見具直盲省相冒看巢盾真值
眠眼視現規眺帽着覚植殖竟想
慎置督睡算箱親霜覽鎮觀瞬懸

自 自首臭而息夏道寡鼻導憂憊優

頁 頂項順頑煩頰傾預頰頼頭頻額
類題顔頰瀨願頰

②原子の増分出現順

口 口古兄右台加句召号吐合同向
如吉各回舌名吸叫束克君吟含
吹呈局乱告否況若和治舍始治
店拘沼招拐事尚知命呼周味品
保胎怠拾洞点架勅客昭祝括活
咲悟俚胴倍員劊割格唆速倉悦
害哲唐高党郡匿造唇唱捨培域
唯略喝紹險陪脫商粘問堂常啓
部週彫船給塔塔檢賀結惑減絡
落創敬詔稅程超疎割喫勤答筒
尋善善渦過掌極喚喪絹損詰感
遠照鉛園路群猿隔聖酪禍塩話
辞痴漢嘆嗣語說銅開銘鳴酷諾
賠噴器褒銳閱稿囑賞舖調操橋
憾整興還諮壇頼猷糖融憩燥環
轄謹償矯嚇額繕臨難驗繰藻韻
瀨競露驚

目 目目早旨旬但兒東卓担明昆昔
者昇昇垣恒恒恒恒恒恒恒恒恒
爾是厚春狂星時時時時時時時
節書唱掉混章措措措措措措措
著部備曹乾品極星朝影晚復相
堤提晴最聞景暑煮温彈骨温骨
晚場湯湯湯湯湯湯湯湯湯湯湯
幕暖輝碧雲陽陽陽陽陽陽陽陽
暮暮模膜覆障障障障障障障障
緒瀟瀟德慈潤空踏履暫攝影諸
潛潛情德鐘鐘鐘鐘鐘鐘鐘鐘鐘
職商頭頭頭頭頭頭頭頭頭頭頭

木 木本札体机朽朴束体村桑床園
杉材林東枝栗刺枚松板新梓榎
杯保柄架助相柱宋粘梁某查柳
栗柔柔柔柔柔柔柔柔柔柔柔柔
殺核桃桃桃桃桃桃桃桃桃桃桃
菜彩果絨刺森種團檢集蔬菜團
極植梓燻茶棋棋棋棋棋棋棋棋
傑業業業業業業業業業業業業
課課課課課課課課課課課課課
練額額額額額額額額額額額額
瀨瀨瀨瀨瀨瀨瀨瀨瀨瀨瀨瀨瀨

③分子の提出順

品 品操熾臨繰繰
林 林麻森禁曆歷摩磨磨礎礎
東 東勅速疎整額瀨
東 東凍陳棟練練欄
本 本体鉢
旦 旦担胆胆
占 占店点粘
元 元完冠院頑

兄 兄克況祝悅兌脫稅說銳閱鏡
卓 乾朝幹潮
永 永泳詠
早 早卓草卓卓乾朝幹障彰潮
午 午御許御
圭 佳封涯掛街
吾 悟語
巢 操燥繰繰

④母語（例では独語）の意味のアルファベット順

100 Millionen	億	[Altar]; zeigen	示
Abdruck, imitieren	模	alte Frau	婆
Abend	夕	alte Währungseinheit „Rin“ (0.001 Yen)	厘
Abend	晩	Alter	齡
aber	但	alter Mann	翁
Abgabe, Tribut	租	ältere Schwester	姉
Abhang	坂	älterer Bruder	兄
abhängen	依	ältester Bruder (der Eltern); Graf	伯
Abkürzung	略	anbeten, verehren	拜
ablehnen	排	anbieten	呈
ablehnen, zurückweisen	拒	anbinden, fesseln	縛
Abschnitt; Abzeichen	章	andere	他
abschreiben	写	anders sein, sich unterscheiden	異
Abstammung; System	系	Änderung	變
abstürzen	墜	anerkennen, genehmigen	認
Abteilung	科	Anfang, erstes Mal	初
abtreten, überlassen	讓	anfangen	始
Abwechslung	迭	anfordern, benötigen	需
Achse	軸	angeln	釣
acht	八	angemessen	妥
achten, respektieren	敬	angenehm	快
Ackerfurche; altes Flächenmaß „Se“ (ca. 100 qm)	畝	angestellt sein	勤
Adel, Adelsrang	爵	Angewohnheit	癖
Affe	猴	angreifen	攻
ähneln	肖	angreifen, bekämpfen	討
ähneln	似	angreifen, niederschlagen	伐
Ähre	穗	anhalten	止
Aktivität	活	anhalten	停
Alge, Seetang	藻	anheften	付